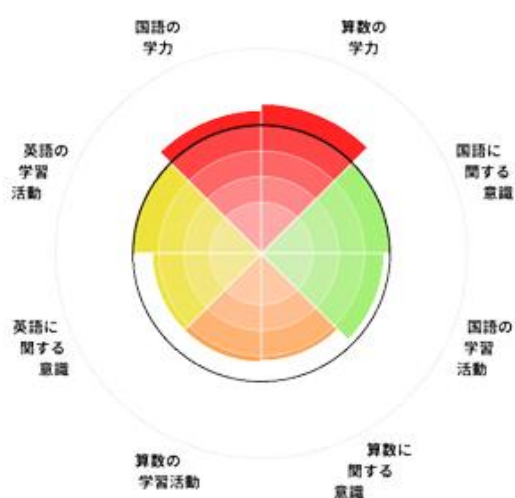


令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果について

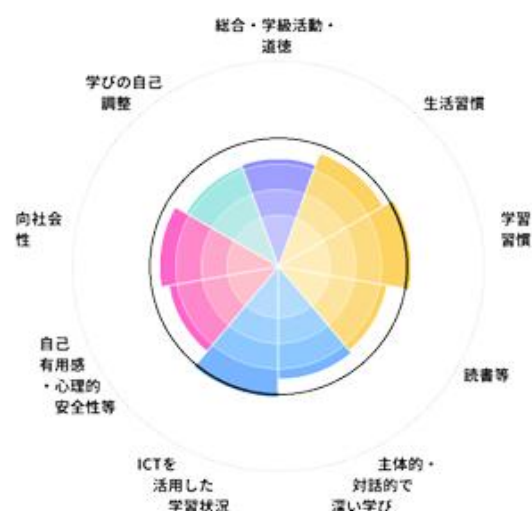
4月23日に、全国の小学6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の緑小学校の結果についてお知らせいたします。

1 結果チャート

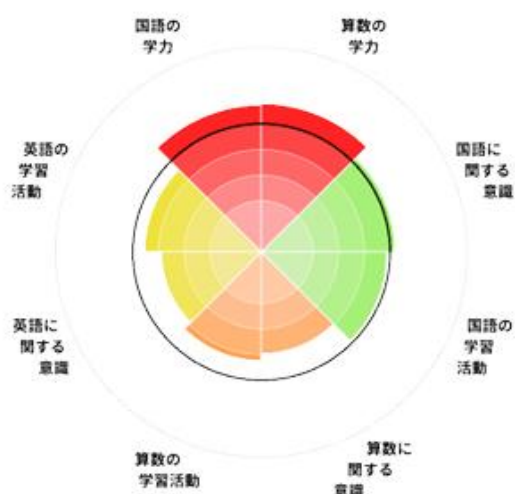
〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



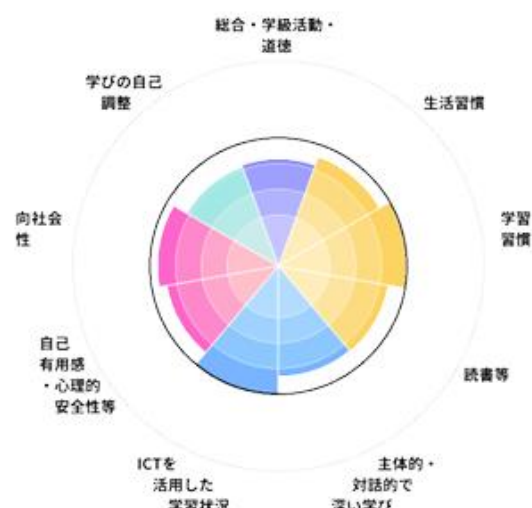
〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



(神奈川県基準)



(神奈川県基準)



結果チャートから、本校は「国語の学力」「算数の学力」において全国平均を上回る結果となりました。また、「学習習慣」や「ICTを活用した学習状況」も全国平均を上回り、学習に向かう基盤が身に付いていることがうかがえます。

一方で、「自己有用感・心理的安全性等」「向社会性」「学びの自己調整」「主体的・対話的で深い学び」については全国平均を下回る結果となりました。

本校の児童は高い学力を身に付けていますが、その学びに対する自信や、自分の考えを安心して表現できる感覚については課題が見られます。今年度は学力向上に加え、自分のよさを実感し、互いに認め合う学習環境づくりが重要な課題であると考えられます。

2 教科学力

① 教科別調査結果

	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)
本校	8.5 / 13	65	10.1 / 16	63
全国との差		+4.1		+6.6
全国	7.9 / 13	60.9	9.0 / 16	56.4
神奈川県	7.9 / 13	61	9.2 / 16	58

国語・算数ともに全国平均を上回る結果となりました。特に算数では全国平均を 6.6 ポイント上回り、確かな学力の定着が見られます。

② 教科学力についての本校の傾向

<国語>

全国平均を 4.1 ポイント上回りました。「話すこと・聞くこと」は 70.9%、「読むこと」は 75.0%と全国平均を大きく上回りました。文章を読み取り、自分の考えをまとめたり、話の構成を考えたりする力が身に付いていることが分かります。また、「文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けてまとめて書く」問題では 90.3%という高い正答率でした。文章を基に自分の考えを形成する力が育っていることがうかがえます。

一方で、「不思議」を漢字で書く問題や、資料を引用して文章を書く問題では課題が見られました。語彙力や表現力をさらに高め、自分の考えを根拠をもって表現する活動を引き続き充実させていく必要があります。

<算数>

全国平均を 6.6 ポイント上回りました。「数と計算」68.9%、「図形」65.3%では全国平均を大きく上回りました。基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着していることが分かります。また、立体の体積や概数、小数や分数に関する問題では高い正答率を示しました。

一方で、「どのように考えたかを説明する活動」や、「割合」「変化と関係」に関する問題では全国平均との差が小さく、思考過程を説明する力に課題が見られました。特に自分の考えを言葉や式を用いて説明する学習をさらに充実させる必要があります。

3 学習に対する興味・関心

主な結果（肯定的回答）

質問項目	本校
国語の勉強は好き	57.7%
国語の内容はよく分かる	86.9%
算数の勉強は好き	49.2%
算数の内容はよく分かる	77.0%
英語の勉強は好き	53.8%

国語では内容理解度が高く、学力結果とも一致した傾向が見られました。

一方で、算数については学力が高いにもかかわらず、「算数の勉強は好き」と答えた割合が約 5 割にとどまっています。学力と自己評価に差が見られることから、学習の成果を実感できる授業づくりや振り返り活動が重要であると考えられます。

4 生活習慣

質問項目	本校
朝食を毎日食べる	92.3%
同じ時刻に寝る	73.8%
同じ時刻に起きる	86.9%

朝食を毎日食べている児童は9割を超えており、基本的な生活習慣は良好です。

一方で、「同じくらいの時刻に寝ている」と回答した割合は全国平均を下回りました。生活リズムの安定は学習意欲や集中力とも深く関係しているため、家庭と連携しながら睡眠習慣の改善を進めていく必要があります。

5 学習習慣

平日の学習時間では、「1時間以上学習する」と回答した割合が全国平均を上回りました。休日についても同様の傾向が見られ、本校児童は家庭学習にしっかり取り組んでいることが分かります。また、ICT機器を活用した学習についても全国平均を上回る項目が多く、情報検索や文章作成に対する自信の高さが見られました。

一方で、

- 自分で学び方を工夫する
- 学んだ内容を振り返り次につなげる

といった項目では全国平均を下回りました。今後は学習時間の確保だけでなく、自ら課題を見つけ学び方を考える力を育成していくことが課題です。

6 規範意識・自己有用感

質問項目	本校
人が困っているとき進んで助ける	92.4%
いじめは許されない	95.4%
人の役に立ちたい	94.6%
自分にはよいところがある	86.9%

規範意識は高く、他者を思いやる気持ちは十分に育っていることが分かります。

一方で、

- 困ったことを相談できる
- 違う意見を言っても否定されない
- 自分で学び方を工夫する

といった項目は全国平均を下回りました。児童一人ひとりが安心して自分の考えを表現できる学級づくりや、自分のよさを実感できる場面を増やしていくことが必要であると考えます。

7 まとめ

本校は教科学力、学習習慣、ICT活用において高い成果が見られました。一方で、自己有用感や心理的安全性、主体的な学びについては改善の余地があります。

今後は、

- 互いのよさを認め合う活動の充実
- 説明や記述を重視した授業改善
- 振り返りを活用した自己調整力の育成
- 安心して意見交流できる学級風土づくり
- 家庭と連携した生活習慣の改善

に重点的に取り組み、学力の向上とともに、主体的に学び続けられる児童の育成を目指していきます。